



2022年7月24日 No.199

日本共産党 品川区議会議員 区政報告

のだて 稔史

事務所：品川区豊町6-2-1 TEL：03-3786-6674
区議控室：品川区広町2-1-36 TEL：03-5742-6818区政報告について
ご意見、ご要望を
お寄せ下さい。

補正予算で一步前進

物価高騰への学校給食支援が実現

給食費用食材費補助の内容

	保護者負担	補助額	1食あたり食材費
1・2年	240円	15円	255円
3・4年	260円	15円	275円
5・6年	280円	15円	295円
7～9年	320円	20円	340円

実施期間：今年9月から来年3月まで

7月に議決された補正予算に給食用食材費補助等が盛り込まれました。「値上げするしかない」コロナ、ウクライナ侵略に加え、アベノミクスによる異常円安のためかつてない物価高騰が生活と営業を直撃しています。

住民からは「今までも食費を削って何とかやってきたが、食料品全般が値上がり、もうお手上げ」との声。クリーニング屋さんや「ハンガーやビニールカバー等、ガス代も上がり、一部値上げをせざるを得なかった。

でもなかなか値段に転嫁することはできない」と深刻です。学校給食も例外ではなく、給食費を上げるか品数や量を減らすしかありません。

現場では去年からすでに供給不足による原油の値上がりで、豚肉を鶏肉に変えたり、デザートをみかん1人1個から大きめの柑橘類を4つや6つに分けるなど、心苦しい工夫をせざるを得ませんでした。それがさらに厳しくなっているのです。

世論と議会論戦で動かした

共産党は「学校給食の食材費高騰により子育て世帯や子どもに負担がいかないよう措置を」と繰り返し要望。区は「状況をみながら検討」と答弁していました。

また、新日本婦人の会品川支部も区に対し要請書を提出していました。

こうした下で補正予算に保護者負担にせず給食費の補助が盛り込まれたことは子どもの幸せを願う世論と議会論戦の成果です。裏へ続く

のだて稔史プロフィール

1985年品川区生まれ、36歳。八潮北小、八潮中、都立雪谷高校、東洋大学工学部建築学科卒。建築設計事務所で6年間働く。2015年4月初当選。戸越5丁目在住。家族は両親と兄。ジブリ映画、バドミントン、テニスが好き。

補正予算のうち物価高騰対策分

子育て世帯 サポート事業	2億1550万円
プレミアム付き 商品券発行助成	8882万円
キャッシュレス決済 ポイント還元事業	5億9281万円
給食用食材費補助	4581万円

※財源はコロナ臨時交付金や都の補助金。

独自財源で苦しい区民や事業所への更なる支援を

今回の補正予算12億円余に物価高騰への支援のための予算が盛り込まれたことは画期的です（左表）。しかし、物価高騰から区民を支援する事業の中に国からの補助金や給付金以外で区の独自財源によるものはありません。区民の苦境を救う品川区の姿勢があまりに弱いことの表れです。

コロナで苦しさが加速している区民や事業所への独自支援を実現させるため力を尽くします。



▲5月10日山添参院議員を通して行われた国交省交渉に参加。工事が止まっている原因や調査データの公表を求めましたが、国交省は一切答えられませんでした。

リニアのトンネル調査工事
原因不明でストップ

50m（予定の1/6）しか進んでいないリニア新幹線の説明会を求める陳情が区議会に出されました。

共産党は工事がストップしている理由が原因不明なことを明らかにしつつ、トンネル工事で事故が起きるのではないかと住民の不安解消へ説明会を実施すべきと賛成しました。しかし、自民、公明は不安払拭が必要としながらも参加した人しか情報が得られない説明会に限定すべきではないと反対し、住民の願いに背を向けました。陳情は説明会に限定するものでなく議会は住民の願いを後押しすべきです。

他の委員会

議会運営 委員会	安藤たい作 副
	石田ちひろ
	のだて稔史
行財政改革 特別委員会	鈴木ひろ子
	石田ちひろ 副
災害・環境対策 特別委員会	中塚 亮
	のだて稔史 副
	おくの晋治

常任委員会

総 務	鈴木ひろ子
区 民	中塚 亮 正
	おくの晋治
厚 生	石田ちひろ
建 設	のだて稔史
文 教	安藤たい作

共産党区議の新所属委員会

※正…委員長、副…副委員長

無料
法律相談

8月9日（火） 午後6時～8時

会場：のだて稔史事務所 豊町6-2-1

お気軽にご相談下さい。弁護士と一緒に話を伺います。

できるだけ事前にご連絡下さい。Tel 3 7 8 6-6 6 7 4

日本共産党